

有明高専だより

第56号
有明工業高等専門学校
〒836・大牟田市東萩尾町150
TEL 0944 53 1011
印刷・重富オフセット

新入生オリエンテーション

校長講話

青年の家

青年の家は全国に約四五〇施設があり、うち国立十三、都道府県立が約一四〇です。昨日から三日間、熊本県立のこの施設にお世話になるわけで、立派な施設と見事な自然環境を与えて下さった熊本県にまず、皆さんと一緒に感謝の意を表さなければなりません。

青年の家の目的は「青少年に自然に親しませ、団体訓練を通じて規律、協同、友愛、奉仕の精神を養い、また学校や家庭では得がたい体験をさせて豊かな情操や社会性を養う」ことであります。

その目的を指し、また、この青年の家の生活の信條「生活は仲よく、研修はきびしく、環境は美しく」を守り、さらに新入生諸君に、本校五年間の生活の指針を与えることが、この三日間の研修の目的です。

師弟の和熟

学生便覧の最初のページの「師弟の和熟のもと」に始まる文章が、本校の教育方針です。師弟の和熟の典拠は、当時(明治三十年)九州で唯一つの旧制第五高等学校(熊本大学の前身)の開校記念日の教

員代表としての夏目漱石の祝辞「……師弟の和熟ハ育英ノ大本タリ師ノ弟子ヲ遇スル事路人ノ如ク弟子ノ師ヲ視ル事秦越ノ如クンバ教育全ク絶エテ……」であります。

路人とは道で行き交う見知らぬ人のこと、秦越とは中国の春秋戦国時代の大国、秦の国と越の国のように互に遠く離れて全く関係のないことをいいます。この祝辞のコピーは図書館閲覧室に篇額として掲げてありますが、本校教育の基は、この師弟の和熟とされています。

三つの柱

これに続いて「豊かな教養、基礎理論・実験実習、スポーツ精神を重んずる全人教育を通して」があります。教育では知育徳育体育の調和が必要であります。工業教育をうける諸君も技術の教育ばかりでなく、豊かな教養すなわち豊かな心、広い視野をもった人間になるように、文学・歴史・美術音楽・宗教・科学・哲学などに親しみ勉強することが大切です。次に専門教育での重点は、専門の基礎理論と実験と実習であります。技術の進歩は目覚ましく応用分野の勉強を迫ってゆけば限界がありません。基礎が大切です。三つ目は、フ

イト・フェアプレー・チームワークを尊ぶスポーツとスポーツ精神であります。この三点に本校教育の重点がおかれています。全人教育とは、知識技術に偏することなく、人間性を全面的調和的に発達させることを目的とする教育のことです。

技術者像

教育方針の最後の節は、将来の技術革新の時代を担う技術者として望まれ期待される人間像が掲げられてあります。すなわち「ゆとりある心・広い視野・高い識見・協調・積極・独創性、新分野を企画開発創造する能力を養い、明るく健康で使命感に燃える高度の実践的技術者の育成を目指す」であります。ゆとりある心とは、自己中心で自分のことだけで頭が一杯という人ではなくて、両親兄弟友人・道で交わる人・バスに乗合う人など、まわりの人のことも考えるだけの心のゆとりをもった人という意味です。この心があれば交通違反も交通事故も無く、日常生活がうるおいのある生活となります。

新分野の技術に生き甲斐をもち、新しい技術を開発する使命をもつ技術者としては、協調性・積極性・独創性の養成が大切です。特に独創性は、一般的に一朝一夕にして養われるものでありませんから日常、基礎的知識・情報・科学的物の見方・考え方のためまぬ努力と創意工夫の心構えが必要であります。

高専教育の目的は、高度の実践的技術者の養成です。いわゆるアカデミックスタッフ・理論的技術者の養成でなく、基礎的知識と理論を实际问题に活用して、新しい技術問題を解決できる能力をもった技術者、これが実践的技術者であります。

先般、高専卒を含む平均年齢が二十一乃至二十才の若い技術者で満ちた大分県東の某工場を見学する機会がありました。工場のメカトロ化もさることながら、新しいアイデアの提供件数が、一年間に一人で百件を超える若い技術者達が多々いることを知り、その企業の活力そのものを見る気が致しました。技術の話ではありませんが、先日ニュースで、ピルの五階から飛び降りる高校生を路上で両腕で抱き止める、人命救助をしたラグビーで鍛えた巡査部長の美談がありました。ボールに対する日頃の訓練・心構え・ファイティン・グスピリッツが、とっさの場合に応用動作として出たものであります。教育方針の中の独創性、創造する能力、実験実習、スポーツ精神などの言葉に関連して、当日思いつくまま、このようないくつかの話をしましたが、紙面が許しません。

岱明寮訓

寮の食堂に掲げられているこの寮訓は「規律友愛」「協調奉仕」

「清潔健康」と三つに区切って読んで下さい。覚え易いと思えます。規律あるところに、はじめて自由があり、友愛が生れる。一緒にやろう、私がやりますという心、協調奉仕の心が、今年の寮のモットー「明るい寮生活」につながります。この寮訓は、初めに記した青年の家の目的とも一致するもので、寮生諸君だけでなく、通学生諸君にも学生生活で大切な訓であります。

読書三訓

図書館の一階ロビーと二階正面に掲げられているこの三訓には「読書は心を豊かにする糧である。読書は頭のスポーツである。読書は人々との出会いである」とあり、各項に短い文が付けてあります。本校では夏休みに、先生方の推薦図書百冊が示されて読書感想文コンクールが開かれ、すばらしい感想文が文集として発刊されています。豊かな教養を身につけるためにも、多くの書を読み、思索し、書く訓練に励んで下さい。本年の夏から、本校図書館は冷房が入ることになりました。沢山の利用者の出ることを期待しています。

昭和五十九年五月三十日
有明工業高等専門学校長
吉村 虎 蔵

(熊本県立天草青年の家にて)



教務主任 荒木三知夫

入試説明会・校内見学会アンケート結果

◎総参加者数及びアンケート記入者数(参加校数 61校)

Table with 5 columns: 生徒, 教諭, 保護者, 計. Rows for 参加者 and アンケート記入者.

◎「入試説明会、校内見学会」に参加することを決めたのは(生徒のみ集計)

Table with 2 columns: 自分, 保護者のすすめ, 先生のすすめ. Rows for 自分で, 保護者のすすめ, 先生のすすめ.

◎あなたは有明高専をどの程度知っていますか

Table with 5 columns: 記入者, 生徒, 教諭, 保護者, 計. Rows for よく知っている, ある程度知っている, あまり知らない.

◎あなたの身内の人で有明高専を卒業された人、在学中の人がいますか

Table with 5 columns: 記入者, 生徒, 教諭, 保護者, 計. Rows for 卒業生がいる, 在学生在がいる, いない.

◎「入試説明会、校内見学会」に参加されて、感想や意見があれば書いてください

- ※参加して良かった、学校に対する理解が深まった 36名
※入学したい、学校が面白そう 16名
※設備が整っている 23名
※見学時間が短い 15名
※実験の説明が難しい 16名
※説明会が長い 7名

◎あなたは有明高専を見学されて、「高専」について、ある程度理解が深まったと思いますか

Table with 5 columns: 記入者, 生徒, 教諭, 保護者, 計. Rows for はい, いいえ, 分からない.

◎あなたが有明高専を見学されて感じられたことは

Table with 5 columns: 記入者, 生徒, 教諭, 保護者, 計. Rows for 施設が整っている, 実験設備等が充実している, その他.

◎このような行事は何月頃実施したほうがよいと思いますか

Table with 5 columns: 記入者, 生徒, 教諭, 保護者, 計. Rows for 8月, 9月, 10月, 11月, その他の月.

◎配布資料

- 1. 入試説明会及び校内見学会実施要項
2. 有明高専案内(中学生の諸君へ)

公開講座

第三回「マイクロコンピュータ入門」開催される

電気工学科



電気工学科 公開講座「マイクロコンピュータ入門」開催される

中学生向けの公開講座「マイクロコンピュータ入門」が、今年も夏休みに入つて間もない7月25日から四日間、電気工学科の担当(協力・電子計算機室)で開かれた。これは専門知識によって地域社会に奉仕することを目的としたもので、今回で三回目である。受講者募集については幸い、大牟田・荒尾両市の広報紙に掲載して頂いたこと、また両市各中学校長のご協力もあって50%の応募を得ることができ、受講者の選定に頭を悩ませる一幕もあった。そのため定員枠を超えて24名を受付けたが、このなかの約半数が自宅にパソコンを所持していること、また一年生の応募が多かったことなど、中学生諸君の関心の高さが感じられた。内容的には昨年とほぼ同じく、BASICの基礎知識の習得を目的とした。すなわち、マイコンのシステム構成・キーボードの学習に始まって、直接および間接モードによる四則演算と式、I/F文と

第9回編入学試験

8月27、28日の両日にわたり、例年の如く工業高校からの編入学試験が実施された。今年も福岡、熊本、大分の各県から合計17名の志願者があり、選考の結果、機械工学科2名、電気工学科1名、工業化学科1名、計4名が合格となり、昭和60年度の各学科四学年に編入されることになった。

60年度入試説明会及び校内見学会

参加者四六〇名

10月27日(土)

昨年八月五日、本校創立二十周年の記念行事の一環として、高等専門学校に対する地域社会の理解を深めることを目的とする、主として中学生諸君を対象の一日入学の行事を行った。この日、近年稀なる災天下にかかわらず、39校、304名の多数の参加を得、校内外の多くの方々の御協力により好評裡に無事終了することができた。今年度に入り、この行事について、時期の問合せを寄せられた関心の

入試説明会及び校内見学会実施要項

- 1. 期日 昭和59年10月27日(土)
2. 日程

Table with 4 columns: 第1組, 第2組, 受付, スライド, 入試説明会, 質疑応答, 校内見学.

3. 会場

- (1) 受付 図書館1階ロビー
(2) スライド 図書館3階視聴覚室
(3) 入試説明会
(4) 質疑応答

その結果、今年度は時期的には夏季を避け、秋に入試説明会と同時に学校見学会を行うことを委員会として了承した。この間、学生課長と大牟田、荒尾の中学の一部を訪問し、時期、方法についての意見を求め参考とした。この実施大綱について、主任会の了承を得、入試説明会については教務委員会、学校見学会については教務委員会の審議を経て、実施要項の作成を進めた。

各学科等の見学場所及びテーマ

Table with 4 columns: 学科等, テーマ, 見学場所. Rows for 図書館, 電子計算機, 一般科, 工業化学科, 電気工学科, 建築学科, 機械工学科, 総合実習センター.

その数が増加し、電話による申込を含めて中学生370名、保護者50名、中学教諭60名計480名に達した。この行事について、10月23日の教員会議に要項を説明し、次いで10月25日引率の教官および事務官に説明を行うとともに、見学コースを一巡した。各学科ともに、見学のための準備が進められており、たまたま10月27日、永く続いた秋日和が一転して曇低く、不安な天候であったが幸にも見学には全く支障がなかった。入試説明会の開始前の時間を活用し、学生生活、校内設備をスライドを用い紹介し、時間の調節に当てる予定であったが開始時の1時15分には略全員が出席



校内見学(電子実験室)

有明高専図書館だより 46

昭和五十九年度

全国図書館大会に参加して

図書係長 宮川喜己

とき、昭和五十九年十月二十五日... 大阪万博ホール、他... 昨年の山口大会(本校から館長が出席した)につき本年は大阪の地方博ホールを主会場に、「情報新時代の図書館づくり」と銘うって第七回全国図書館大会が開催され、参加する機会を得たので、討議された経過と結果並びに感想など概略を述べ報告とする。

全国からの参加者は、昨年の山口大会の一八〇名には及ばなかったものの、本年も全国各地から、三〇〇名を超える参加があり、大会の雰囲気はいやがうえにも高まり活気に満ちた大会の幕あけとなった。まず基調報告として日本図書館協会理事長より、我が国の図書館の現状について、これからますます複雑多様化する情報化社会の到来とあわせて、公共、国立、大学図書館などあらゆる館種を超えた図書館の相互協力とネットワーク作りの必要性、また、コンピュータ導入によるデータベースの構築等の重要性、著作権の集中管理等々... これからの新しい図書館づくりの指針となすべき貴重な報告があり、つづいて大阪生まれで出版界で今最も活躍されているSFP作家、小松左京氏の「私と図書館」を演題に記念講演があり、今大会のメインテーマである「情報新時代の図書館づくり」にふさわしく、氏は自宅にコンピュータを持込み、資料(書誌)の整理、保存等、技術革新時代の最先端を行かれる作家らしく、最新の情報機器を駆使しての文献検索など、またある大学図書館の書庫で文献検索中に、閉館時間に気がつかず図書館に閉じこめられ書庫で一晩を明かした事など、ご自分の体験談を交えながらユーモラスな語り口の中にも図書館の果たす役割、使命など強調され、楽しく有意義なお話を拝聴した。

▽高専分科会(第一日目) 今年の全国高専独自の分科会は、昨年の近畿地区高専図書館連絡協議会において開催することが決議され、これを受け和歌山高専と大阪府立高専が世話校として全国高専を対象にアンケート調査され、この調査をもとに(1)図書館業務の簡素化と電算化(2)高専図書館基準が研究テーマに設定され、これらの研究題目について、全国から集った高専図書館関係四十六名で討議されることになった。この高専分科会を開催されるに当たっては、事前にアンケート調査、会場の確保、宿舎の手配など種々ご配慮いただいた世話校の関係の方々へ深く感謝する次第である。

分科会は、まず世話校の大阪府立高専校長のあいさつに始まり、舞鶴高専小西館長の司会で議事が進行され、事例発表(1)「図書館業務における電算化の利用」について大谷佳範氏(鈴鹿高専)より電算化について、その利用目的、機種、要する費用、利用のメリット、デメリット等詳細に説明があり、各館の現状と今後の方策などについて活発な意見の交換があり、大学図書館、公共図書館(大規模図書館)においては、すでに電算化もかなり進んでいるようであるが、高専図書館においては全体的に時代を要請して電算化の必要性は認めながらも現状は、大学図書館公共図書館に比し相当遅く立遅れているのが実情のようであった。しかし図書館業務を遂行するうえで、電算化は我々館員に課せられた課題でもあり、利用者によりよいサービスを行なううえでも、積極的

に推進することが必要であろうし、高専図書館においても各館それぞれ電算化に向けての意識の高まりが論議を通じてうかがえた。また我が館員が努力次第では高専図書館において実現不可能なものではないように思われた。次いで、事例発表(2)「高専図書館基準」寺脇弘光氏(明石高専)現在、高専図書館においては、具体的に法体系化されたものがなく、「高専設置基準」の十七条に高専の施設として教室・研究室とともに図書館を備えるものとする。また第二十条に学科の種類、教員数及び学生数に応じて必要な種類及び数の図書及び学術雑誌を系統的に整理して備えるものとする。定められているものの数量など具体的な基準は示されていない。とりわけ蔵書構成の問題、書庫の問題、図書長(職制)の身分、位置づけ等々... 各高専間でもそれぞれ状況差が生じている。このよう現状をふまえて、過去、国専協事務部長会等でも問題提起され議論された経過があるにも拘わらず具体的な基準制定までには至っていない。これらの問題点を限られた時間内で結論を出すことは非常に困難であり、問題解決の糸口を非常に困難です。ためには、毎年継続して討議し関係方面へ働きかけて行くことを出席者全員確認した。

▽第四分科会(短大・高専) 分科会は十一の分科会に分け討議され、私達高専関係代表は、標記第四分科会に参加した。ここでは、爆発的な情報量の増加とますます多様化する情報化社会に対応して「相互協力網を作るために」今すべきこと、できることについて基調報告のあと、長倉先生(国立教育研究所)の講演があり、図書館におけるネットワークの基本概念について、国鉄の緑の窓口(すべりの切符が購入できる)を例に、すなわち利用者が求めるすべての要求(文献の所在、複写等々...)をこの図書館でも自由にサービスが受けられることがネットワークの形成、相互協力体制づくりの基本であることなど、非常に解り易く説明していただき共感をもって受けとめた。つづいて分科会の主題にしたがって各発表者より短大図書館の利用指導の調査報告、各地域の相互協力体制の状況、ネットワークの現状等についての発表があり、このあと質疑が行われ、図書館に関する様々な問題が論じられ、質疑の中で図書館の機械化も、またネットワーク作りの大切さもさることながら、根本的には学生にいかんして本を読ませるかが我々、教師、職員に課せられた使命であるとの、読書の大切さを強調された言葉が強く印象に残った。

▽閉会式 本大会の総決算として、二日間討議し決議されたことを、各分科会の代表者が発表し全員が確認し最後に図書館の自由に関する宣言が採択され今回の全国大会が終了した。

▽閉会式(第二日目) 本大会の総決算として、二日間討議し決議されたことを、各分科会の代表者が発表し全員が確認し最後に図書館の自由に関する宣言が採択され今回の全国大会が終了した。

▽閉会式(第二日目) 本大会の総決算として、二日間討議し決議されたことを、各分科会の代表者が発表し全員が確認し最後に図書館の自由に関する宣言が採択され今回の全国大会が終了した。

▽閉会式(第二日目) 本大会の総決算として、二日間討議し決議されたことを、各分科会の代表者が発表し全員が確認し最後に図書館の自由に関する宣言が採択され今回の全国大会が終了した。

▽閉会式(第二日目) 本大会の総決算として、二日間討議し決議されたことを、各分科会の代表者が発表し全員が確認し最後に図書館の自由に関する宣言が採択され今回の全国大会が終了した。

▽閉会式(第二日目) 本大会の総決算として、二日間討議し決議されたことを、各分科会の代表者が発表し全員が確認し最後に図書館の自由に関する宣言が採択され今回の全国大会が終了した。

VTR

テクノピアの利用について

第18期生 卒業研究テーマ

機械工学科

- 1. 学習要素の階層的構造について (石崎) 古賀 優・蓮尾信一
2. 断面変化のある片持梁の横振動について (木村) 白谷隆治・境 栄二
3. 往復機械の運動方程式の数値解の研究 (木村) 川田 光・江口 剛
4. 爆発硬化した高マンガンオーステナイト鋼の物性(I) (小田) 秋山正人・大城俊一
5. 爆発硬化した高マンガンオーステナイト鋼の物性(II) (小田) 長岡浩毅・福岡博之
6. 爆発硬化した高マンガンオーステナイト鋼のX線応力測定 (宮川・大山・小田) 金子 涉・堤 浩光
7. 高マンガンオーステナイト鋼の疲労 (大山・宮川・小田) 工藤 剛・吉武政親
8. 多翼送風機の実験的研究 (清森) 森山一成・和斉義一
9. 傾斜二重管内における気液二相流の研究 (狼渡) 松田泰史・小川勝也
10. 複合流路における気液二相流の研究 (狼渡) 田中亮輔・今村 豊
11. ヒートパイプの性能に関する研究 (下村) 山田栄作・小松準三
12. 現状フィン付き伝熱管を有する潜熱蓄熱装置に関する研究 (吉田) 藤原 健・伊藤嘉寛
13. 深穴加工の研究 (田口) 宮本孝司・園田隆雄
14. 制御系のロバスト設計 (川崎) 林田 歩・橋本信雄
15. セラミックスと金属の拡散溶接 (小田・宮川) 古賀正明・松藤賢二
16. 総合実習 (風洞周辺部製作) (清森) 荒島正明・久保隆・下田修一郎
17. 総合実習 (センサー移動装置) (田口) 山口政敏・岩永徳幸

電気工学科

- 1. マイクロコンピュータの基礎研究と試作 (荒木) 境 祐二・原田茂稔
2. 誘導電動機の設計と製作 (武下) 興梠秀一・田中雅昭
3. 交流電動機制御の研究 (武下) 角 哲也・平井 浩・深町 公
4. 鉄共振の応用 (須藤) 飛松誠二・牧野雄至
5. d-q軸変換を用いたI.M.の新等価回路 (須藤) 久保浩二・小宮寿之
6. 電気回路の過度解析(1) (辻) 松永裕吉・坂本智久
7. 電気回路の過度解析(2) (辻) 上村千幸・井島達也
8. PLAによる論理回路の構成 (近藤) 角 宏之・西川哲夫
9. PLAの応用 (近藤) 岩田昭吾・北原普一
10. 超音波振動子の振動特性 (小沢) 沖 浩明・角田一誠
11. 超音波振動子の入力インピーダンス (小沢) 沖 浩明・角田一誠
12. 線対平板電極におけるイオン風分布 (浜田) 浦塚 精・中村重治
13. 線対平板電極のコロナ電流分布の多極化 (浜田) 境 靖広・橋本良則
14. ローカルエリアネットワークシステムの研究(1) (松野) 副島誠康・中嶋健一
15. ローカルエリアネットワークシステムの研究(2) (松野) 沖中聖一・工野晴己
16. スピーカーの振動特性 松尾美治・工藤将生・中村博文

工業化学科

- 1. 海水中の微量成分の分析 (勝田) 後藤 隆・下西 司・益田竜児
2. ICAP500型による波長走査法による分光分析 (勝田) 岩山浩一郎・吉川信二

昭和60年3月卒業予定学生諸君の卒業研究テーマを学科別に示す。報文番号・報文題名・指導教官名・学生氏名の順に示す。

- 3. 金属錯体混合物の熱分解反応に関する研究 (城戸) 相部憲昭
4. 金属錯体生成の電気化学的研究 (城戸) 北川精治
5. 金属錯体の電子衝撃による分解の研究 (城戸) 水本 惣
6. マイクロコンピュータによる三次元画像(網膜透視図と陰影) (石橋) 八木章寿・山本正治・和田博治
7. ウリカーゼによる尿酸の分解反応 (永田) 境 隆志・平山博美・前原辰哉
8. ポリウレタンモデル化合物のPyr-GC-MSによる熱分解機構の検討 (吉武) 近藤信幸
9. パソコンのHMO法およびより進んだ分子軌道法プログラムの改良 (吉武) 坂崎信男
10. パソコンの有機化学への応用 (吉武) 月田博文
11. ゲルクロマトグラフィー用水系充填剤の合成 (松本) 田中賢二
12. イオン交換体の合成 (松本) 林 友広・中川原和浩
13. 真空下における気液平衡関係の測定 (渡辺) 池田秀二・河口和広
14. 気液平衡データの電子計算機による処理 (渡辺) 園田 悟
15. 化学合成二酸化マンガンのZnCl2型電池への適合性 (宮本) 丸山芽久美・江崎裕二
16. 化学合成二酸化マンガンのLi-MnO2電池への適合性 (宮本) 安枝 稔・福原 親
17. 電池反応の解析 (宮本) 建部和規
18. Poly (4-hydroxystyrene) の相平衡 (水室) 清村正博
19. Poly (4-hydroxystyrene) の溶液粘度と温度依存性 (水室) 大塚正志
20. Poly (4-hydroxystyrene) の非振動鎖長の温度依存性 (水室) 桜井雅文

建築学科

- 1. 街並みの色彩についての調査及び考察 (松島) 藤浦正通
2. 室内空間の色彩心理と旨好調査及び考察 (大川の家具を主として) (松島) 古賀重由美
3. 工業化住宅に於ける構法の史的変遷 (松島) 津田輝昭
4. マスプロ住宅に於けるモジュールの史的変遷 (松島) 木村龍一
5. 在郷神社建築様式の調査及び考察 (松島) 荘田雅章
6. 型枠工事の問題点について (松島) 笠原信悟
7. RC柱のせん断破壊に関する有限要素法解析 (玉野・上原) 高松龍一・中村 勤
8. 直下地震によるRC柱のせん断破壊防止のための実験的研究(その1. 加力周波数の影響に対する研究) (玉野・上原) 新谷秀生・田島竹志・吉田和弘
9. 同上(その2. せん断破壊防止のための補強法に関する研究) (玉野・上原) 中島隆弘・西村秀夫
10. 直下地震による建物の震害防止のための基礎研究(その1. RC建物に及ぼす上下動の影響に対する研究) (玉野・上原) 中島 悟・本園祐二
11. 同上(その2. 本造建物の震害防止に関する研究) (玉野・上原) 山下 正
12. 総合的実験実習に関する研究 (吉岡) 一九敏雄・野田幹夫
13. 低サイクル疲労における平均応力の影響 (原田) 奥 和範・小山 太・佐藤正人・福田慎一郎
14. 欧米に於ける病院建築計画に関する研究 (新谷) 狼渡竜次・重富明子・野口雅弘・平田桂子・森山恵香
15. 一方型吊屋根のフラッタ (三宅) 青木泰浩・中垣謙二
16. 風洞内気流の特性 (三宅) 川口憲二・吉永誠治
17. 大牟田市における新築住宅の地域的傾向に関する研究(北岡) 江崎晋子・黒田繁美・東雲聖一・渡邊晴美
18. マイコンによる日影図の作成 (山下) 西川伸之
19. 明視照明に関する実験的研究(ランドル環の抹消作業成績と知覚対比) (山下) 鹿子木達也・吉松良知



機械工学科



電気工学科



工業化学科



建築学科

学生会長 5A 笠原信吾

第13回 体育祭



教官VS父兄(綱引き)

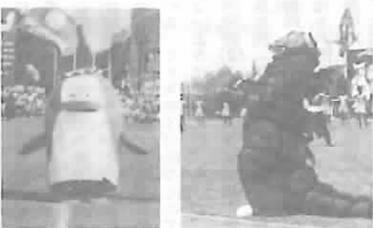
十月二十三日(日)八時五十分絶好の秋晴れの中、ビヤの合図により第十三回体育祭が開催された。今回のテーマは「燃えて候」。我々、若人の燃える姿を表現し、観てもらおうという意図である。応援合戦、百米競争を皮切りに競技は進められた。三十三人三十一脚、障害物競争に三輪車を用いる等の新しい企画は、観客の人達にも好評のようであった。毎年恒例の綱引き、騎馬戦と盛り上がり、午前中最後の応援合戦では、各学科レベルの高い芸を披露した。また、今回の新しい企画として、各学科が、それぞれマスコットを製作し応援に使用する、という試みを行ったが、各学科ともすばらしい物を作り、大好評であった。午後に入り、棒倒し、学科対抗リレー等の花形の競技が行われ、スタンド・観客席を沸かせ、四科エール交換を最後に、競技は終了した。

その結果として、建築学科が総合優勝を手にした。が、機械、電気、工業化学の各学科も、学科団長を中心によくまとまり、最後まで健闘した。

幸い、たいしたケガをする者もなく、心配していたプログラムの進行の方も、三分の遅れで終了することができたことは、我々には嬉しいことであった。

後日行われた反省会について報告してみると、体育祭学生負担金の金額の問題、服装の問題等が上げられ、次回の体育祭で再検討することを申し合わせた。また細部の問題については、次回の体育祭の資料として、記録している。

大きな問題もなく、無事体育祭を終了することができたのも、東雲実行委員長を始め、運営を行ってくれた関係役員。また、御指導御協力下さった主事室・体育科の先生方、学生係の職員の方々のお蔭である。改めて感謝いたします。



(A科) マスコット (C科)

救急対策講習会

「人工呼吸法と心臓マッサージ」視聴覚教室で
従来、救急講習会という前例はなかったが、今年度、体育総括顧問仁田原教官の発議で、是非これを実現しようということになった。六月十九日(火)午後二時半から、体育系クラブ対象の救急対策講習会として、人工呼吸法および心臓マッサージ法について、大車田消防署の方四人においで願って、図書館三階の視聴覚教室で行われた。受講者は先方の希望もあり、約百名ということになったので、体育部顧問教官、各体育部のキャプテン、副キャプテン・安全管理委員・マネージャーらが受講した。人工呼吸法については、まず、マウス・ツウ・マウス法の講話が四十分、映画二十分のと、人形を相手に受講者は時間が許す限り多くの人によって実習させられた。

同時に人形を相手に心臓マッサージも実習することができた。その口を口をつける珍しさも加わり、非常に印象深く残る受講だった。これはできれば全学生・全教官が経験したらよい内容であったと思われる。受講した学生はこの経験を、いざの時に生かしてもらいたいものである。



春季球技大会

グラウンドで、体育館で、テニスコートで、熱い戦いが繰り上げられた、昭和59年度春季球技大会。見事な青空の下で、この日はやはり教官も学生も生き生きとした表情を見せていた。

この日、5月11日(金)、集合、観戦状態が非常によく、また道具等の管理もゆきといており、この会は大成功に終わったといえよう。

結果は次の通りである。

(種目別優勝チーム)

- ソフトボール 教官チーム
- バレーボール 4M
- テニス 4E
- 卓球 2M
- 最優秀クラス 2M

体育局長 5A 東雲聖一

これは、先生方の御指導、また学生全員の団結力のおかげだと思える。

小文化祭

秋の小文化祭が10月31日(水)、本校の第二体育館を中心に行なわれた。文化局長5Eの西川君を中心に実行委員会が組織され、細かい計画がたてられた。今年は全学生にプログラムを配布し、展示や催し物の場所と時間を周知させることにした。参加クラブは19クラブ中11クラブであり、クラスから3クラスが参加した。不参加の8クラブは今後の奮起に大いに期待したい。

午前中は、4A脇坂君と5A森山さんの英語弁論が行なわれた。会場では弁論の前に両人の原文が配布され、ESS顧問の松尾先生から弁士紹介がなされた。引き続き音楽鑑賞としてピアノ連弾と歌曲の演奏があった。日頃、生心に実行委員会が組織され、細かい計画がたてられた。今年は全学生にプログラムを配布し、展示や催し物の場所と時間を周知させることにした。参加クラブは19クラブ中11クラブであり、クラスから3クラスが参加した。不参加の8クラブは今後の奮起に大いに期待したい。

午後からは、第二体育館と選抜棟で吹奏楽部、フォークコンサート部、各バンドの演奏があり、一般棟、修己館、セミナー室では各クラブの展示やビデオ鑑賞などがあつた。展示物は各クラブとも努力のあつたものがあつた。ビデオ鑑賞でも1Mの自作ビデオなど、学生自身の手による立派な作品もあつた。各バンドも決められた演奏時間をこえることもなく実行委員会の指示に従い、日ごろの練習の成果を充分見せていた。

来年は高専祭である。この小文化祭をバネにし全校一団となって

したが、余韻さめやらぬ聴衆によつてアンコールが求められ、日本歌曲で幕を閉じた。体育館という場所にも拘らず学生のために協力を惜しまれなかった奏者の方々に心より御礼申し上げる。

午後からは、第二体育館と選抜棟で吹奏楽部、フォークコンサート部、各バンドの演奏があり、一般棟、修己館、セミナー室では各クラブの展示やビデオ鑑賞などがあつた。展示物は各クラブとも努力のあつたものがあつた。ビデオ鑑賞でも1Mの自作ビデオなど、学生自身の手による立派な作品もあつた。各バンドも決められた演奏時間をこえることもなく実行委員会の指示に従い、日ごろの練習の成果を充分見せていた。

来年は高専祭である。この小文化祭をバネにし全校一団となって

- ✕ ピアノ連弾
 - 大津山佳子先生
 - 国立音楽大学ピアノ科卒業
 - 熊本音楽短期大学専任講師
 - 石橋秋子先生
 - 武蔵野音楽大学ピアノ科卒業
 - 業・明光学園高校専任講師
- ✕ 歌曲
 - 野田幾子先生(アルト歌手)
 - 国立音楽大学声学科卒業
 - オペラ・コンセル・ピエール協会会員
 - 永松博子先生(ピアノ伴奏)
 - フェリス学院大学音楽科ピアノ科専攻科卒業
 - 大牟田音楽家協会会員
- ✕ 曲目
 - 幻想曲 四番 シューベルト
 - 愛の夢 3番 リスト
 - ジ・エンターイナー ジョプリン
 - ネコふんじやった
- ✕ 異郷に
 - 羊飼いの嘆きの歌 シューベルト
 - 私の太陽 ナポリ民謡
 - うるわしき若き日々・キンウエル
 - 白月 三木露風詩・本居長世曲
 - 青待草 竹久夢二詩・多忠亮曲
 - なら山(アンコール曲)

去る八月十日(金)、柳川市民会館にて、北九州、大分、久留米、有明の四高専吹奏楽部による、合同演奏会が、盛大に開かれました。今年度は本校吹奏楽部が当番校だったので、地元、大牟田でこの演奏会を開きたかったので、百人余りという大人数を収容できる舞台がこの大牟田になかったので断念したと聞いています。

この演奏会のため、10日間の合宿を行い、この合宿生活の中で、我々スタッフを中心に、少しずつ演奏会の形をつくっていきましました。

演奏会は三部制で、第一部は、北九州高専5年の川脇さん指揮によるオリジナルで、吹奏楽のための序曲、クイン・シテイ1組曲、呪文と踊りの3曲で、吹奏楽特有の音楽を演奏しました。第二部は、本校5年の副島さん指揮によるボビエラ1(全七曲)でしたが、この二部は、我々スタッフが、総力を上げて考えたもので、一人の人間の一生をコメディタッチで描いたもので、ステージでは、劇と演奏との両方から楽しんでいただきたいと思います。

同時に人形を相手に心臓マッサージも実習することができた。その口を口をつける珍しさも加わり、非常に印象深く残る受講だった。これはできれば全学生・全教官が経験したらよい内容であったと思われる。受講した学生はこの経験を、いざの時に生かしてもらいたいものである。

この演奏会も、今回で十七回となりました。十八、十九回と回数を進むのを、我々は楽しみにしています。まだまだ、たくさん問題があり、これらの問題を解決するには、まだ時間がかかるので、我々スタッフは、今度また本校が当番校となる時は、一つでも問題が少なくなっていることを願っています。また、この演奏会を開くにあたって協力してくださった、先生がたや事務のみなさん、それに、たいへん感謝しております。どうもありがとうございました。



演奏会参加者



ピアノ連弾



ピアノ連弾

すでに、報告書に、使用例が散見されるが、種々の測定装置のデータ処理に欠かされられないものと考ええる。地域模型を作り、煙突から出る煙が周辺にどのように拡散していくか等の問題は風洞実験でも行なわれるが、マイコンによるシミュレーションによって理論的に予測がたえられるであろう。すでに、参考となるソフトも公開されている。

三次元センサー移動装置の制御にマイコンを使うことが予定されている。

このようなマイコンの利用については、総合実習でもっと本格的に研究されてよいのではなからうか。

(4)むすび

総合実習センターも最初の構想以来10年以上を経過し、徐々に多くの理解を得るに至っている。しかし「総合」とは名ばかり、実際には、機械科、建築科が、主導的である。電気科、工業化学科又一般科の奮起が望まれる。そして名実共に「総合」の名に恥じないものにしていかねばならない。

「総合」という言葉を「広辞苑」でひくと、①個々別々のものを一つにあわせまとめること。分析の反対語……と書いてあるが、実習センターの「総合」の意味する所は、ただ別々のものの寄せ集めであってはならない。有機的に内的に、あわせまとめること

でなければならぬであろう。そのためには、「一人よがり」にならず、各科の意見を冷静によく聞くことが、又理解してもらうための地道な努力が大事ではなからうか。

学科間の連絡(情報交換)を密にし、年に一度は、報告会を全学的に開催し報告、討論などの出来る場を設けることを、提案したいのである。以上 (吉武)

環境分析センター第二分析室の現課題の一端について

従来の分析では、原子吸光分光分析が、中空陰極管毎に単元素分析をする不便のために、未知元素の混入した分析化学廃液の分析に不適当であった。本年は新たに、アルゴンプラズマ分光分析計(以下ICPと略記)を、波長走査型分光分析器として使用する方式を試みた。

廃液等未知試料は、各種混入元素の量と濃度の差が極めて大きく分析元素の主なものは、回収容器に表記し、分別収集してある筈であるが、混入物不明や、容器に表記した成分とは信じ難い内容物もしばしばみかける。

この様な未知試料溶液の分析には、一元素毎に、中空陰極管を替える原子吸光分析は使うことによる不便が、ICP分析では、管球取付けに相当する被検元素の選定は、元素特有の輝線スペクト

ル波長に、回折格子の傾きによる波長選定をするだけである。またICPにも多元素同時分析機と、単元素分析機とがあり、本校の後者であり、同定すべき元素が、装置設置の際、調整固定化されている多元素同時分析機より、不特定多数の元素を含む化学分析実験廃液に適しているといえる。

更に良い事には、単元素分析機ではあるが、輝線スペクトル波長にはあるが、輝線スペクトル波長に適合させる迄の、測定波長設定機構に、手動と自動送りの両様が選べる様になっているので、全波長域に適合することである。

但し、プラズマ中で発光する各元素の輝線スペクトル本数が極めて多く、回折格子の分解能 2.6×10^4 以内に重なりが生じて、互に誤差を与えることに問題がある。

また、輝線の強度測定に使用する光電子増倍管の性能が全波長域に対して平坦な感度を持っていない為に、固定波長では、有効に機能するバックグラウンド強度補償機構が有効でなく、波長走査に従って、記録紙上で、基線が逐次高くなり、一定波長毎に、基線零復帰ボタンを押さねばならないのである。

以上の様なことで、本来走査型に設計されて居れば、基線変動を抑えることは可能と思われることや、マイクロコンピュータに元素毎の輝線の波長と強度を入力しておけば、互に重複する輝線強度の

自動補正出来るのに、測定者が検討補正しなければならぬ。しかし定量分析でなく、溶存元素の定性的判定には一応成功するであろうとの予備実験結果は得た。

これは一元素に対しては、全輝線を測定する必要はなく、最強線に続く二、三の明るい輝線スペクトル測定で定性分析にさしつかえないことと、試料溶液に六〜七元素以上混入している場合はほとんどないと考えられるからである。

なお、幸いなことに、分析に使用するアルゴンガスの輝線の本数は多いが、大雑把に言えば、線群の様に分布しているもので、その領域を除いても、元素分析は一応可能と考えられるからである。

なお欲をいえば、記録計の針は強い輝線に対して、しばしば振り切れるため、光電子増倍管の増巾度を抑えざるを得ず、そうなるほど輝度の低い元素の検出最低濃度が高くなり、検出には、低感度と高感度の二重走査が必要で、試料液と実験時間が倍増するおそれがある。即ち記録計入力に対して、自動出力制御回路と、その減衰率を記録するか、光電子増倍管の出力を二分し、高低両増巾度を二ペン記録計に入れ、スケールアウトに対しては、リミッターを挿入して、二重走査の必要を無くする事が望ましい。

しかし本年度は、とりあえず、卒業研究の一端として、現装置の



写真2 フィルター取付け

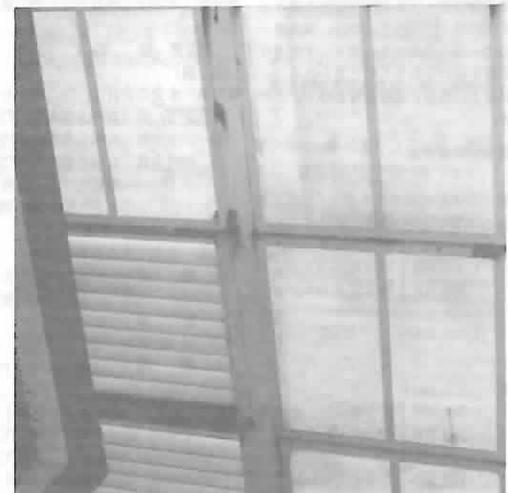


写真3 フィルター詳細

の年来の夢が果せるものと、今后の成果に期待している次第である。(勝田)

昭和59年4月より9月までの前期総合実習の経過等について報告する。

(1)総合実習概要

環境風洞関係では、整流格子が取りつけられ、風洞内の風の乱れが大巾に縮小されるようになった。そのほか、吸込みチャンバーの階段及び、フィルター取付、扉、フィルター枠及びガラリ塗装、ガラリ取付などの作業は終了した。これらの作業は、M科の学生が中心となり、一部E科の学生が行なった。現在三次元センサー移動装置を取り付けられるような構造の測定部を作製中である。

なお、この風洞を用いる実験、実習は、昨年よりすでに行なわれているが、後期より一層本格的に進行する予定である。

エネルギー問題に関する第二プロジェクトであるソーラーシステムは、潜熱蓄熱槽伝熱管の配置法が、伝熱特性に及ぼす影響を、理論的、実験的に調べると共に実験装置の設計、製作を目的として継続されている。

その他、風洞を用いて行なわれる構造物風力実験、大牟田市内周辺の環境調査における資料整理などがA科学生によって行なわれている。

(2)環境開発教育施設において行なわれる実験実習について

本施設は、本来有明地域の自然災害、環境汚染、エネルギー等を含んだ諸問題に関する環境開発を主体的に設立された。本施設を用いての「有明地区の環境保全並びに災害防止のための基礎研究」は特定研究として、現在実施中である。

本号では、本施設を使用して工業化学科が主体となつて行なう環境汚染問題、共同教育研究に関する。

(2)エネルギー関係第一実験室

本実験室では、工業化学科卒研の一課題として「ウリカーゼによる尿酸の分解反応」についての実験が行われている。

主な機器としては、尿酸濃度測定用としての分光光度計がある。この実験に関して、これまでに尿酸分解生成物の分解反応に対する影響、ウリカーゼの活性低下、と共に尿酸分解反応における尿酸濃度の経時変化の測定と分解速度の解析についての考察などを行なってきた。

本年度は、尿酸を含む反応液中の溶存尿酸濃度を一定に調節できる装置の工夫と溶存尿酸濃度一定のもとでの尿酸分解経時変化の測定、ならびにこれよりより広い範囲の尿酸濃度についての分解初速度の測定を行なっている。

(この項 永田)

(2)環境汚染第二分析室

ガスクロマトグラフが設置されているが、ヘリウム、水素等の配管工事が不十分のままになっている。安全のためにも空間の確保のためにも早急に、工事が行なわれることを望む。風洞を使用し、大気汚染拡散実験シミュレーションに使われる予定であるが、地域模型の完成が待たれる。ガスクロマトグラフの熱分解実験にも使用される。

(3)マイクロコンピュータについて



写真1 取付の取付

本施設は、本来有明地域の自然災害、環境汚染、エネルギー等を含んだ諸問題に関する環境開発を主体的に設立された。本施設を用いての「有明地区の環境保全並びに災害防止のための基礎研究」は特定研究として、現在実施中である。

本号では、本施設を使用して工業化学科が主体となつて行なう環境汚染問題、共同教育研究に関する。

(2)エネルギー関係第一実験室

本実験室では、工業化学科卒研の一課題として「ウリカーゼによる尿酸の分解反応」についての実験が行われている。

主な機器としては、尿酸濃度測定用としての分光光度計がある。この実験に関して、これまでに尿酸分解生成物の分解反応に対する影響、ウリカーゼの活性低下、と共に尿酸分解反応における尿酸濃度の経時変化の測定と分解速度の解析についての考察などを行なってきた。

本年度は、尿酸を含む反応液中の溶存尿酸濃度を一定に調節できる装置の工夫と溶存尿酸濃度一定のもとでの尿酸分解経時変化の測定、ならびにこれよりより広い範囲の尿酸濃度についての分解初速度の測定を行なっている。

(この項 永田)

(2)環境汚染第二分析室

ガスクロマトグラフが設置されているが、ヘリウム、水素等の配管工事が不十分のままになっている。安全のためにも空間の確保のためにも早急に、工事が行なわれることを望む。風洞を使用し、大気汚染拡散実験シミュレーションに使われる予定であるが、地域模型の完成が待たれる。ガスクロマトグラフの熱分解実験にも使用される。

(3)マイクロコンピュータについて

昭和59年度 前期 総合実習経過表

実習項目	実習経過 (月)						実習者数×時間(人時)				
	4	5	6	7	8	9	M	E	C	A	小計
整流格子取付	■	■	■	■	■	■	108				108
吸込みチャンバー階段及び扉		■	■	■	■	■		141			141
吸込みチャンバーフィルター取付		■	■	■	■	■	301.5	24			325.5
フィルター枠及びガラリ塗装			■	■	■	■	51.5	21			72.5
ガラリ取付			■	■	■	■	34.5				34.5
測定部外枠取付	■	■	■	■	■	■			93		93
ブロック積み				■						8	8
吹出しチャンバー設計					■	■				66	66
構造物風力実験	■	■	■	■	■	■				294	294
ソーラーシステム	■	■	■	■	■	■				280	280
設計	■	■	■	■	■	■				117	117
資料整理			■	■	■	■				72	72
大牟田市内周辺環境調査											
地質粒度分析											
通算累計							729.5	45		837	1,611.5

機械工学科

吉田正道先生 □5月20日御結婚 新婦緑さん(旧姓小田) ◎836 大牟田市東萩尾町150 高専宿舎 Ⅲ0944-51-3714

前田 晃君(51) □9月8日結婚 新婦福子さん(旧姓三浦)

豊 潤治君(52) □9月27日結婚 新婦ちどりさん(旧姓山崎) ◎670 姫路市土山2丁目9-5 土山ハイッ302号 Ⅲ0792-97-5107

竹下敬治君(52) □10月21日結婚 新婦葉子さん(旧姓松尾)

西島康英君(54) □5月20日結婚 新婦久美子さん(旧姓木本) ◎362 埼玉県上尾市柏座3丁目4-7 柏荘22号 Ⅲ0487-74-2981

中島和広君(54) □10月21日結婚 新婦房代さん(旧姓中川) ◎807 北九州市八幡西区小峰3丁目11番2-5065 Ⅲ093-612-7372

平山栄一君(44) □転勤のため転居 ◎412 静岡県御殿場市新橋70番地 Ⅲ0550-4-0152

電気工学科

山下広喜君(48) ◎59.2.4結婚(新婦美智子さん) □448 刈谷市小垣江町上沢渡41-3 533号 Ⅲ0566-21-1260

村井浩伸君(57) □転居865 玉名市大浜町630 Ⅲ09687-6-0900

猿渡幹夫君(53) ◎転居254 平塚市御殿1丁目32の3

浅田敏彦君(55) ◎転職 荒尾市役所(864 荒尾市宮内出目390 Ⅲ09686-3-1111) ◎7864 荒尾市平山839 Ⅲ09686-6-0443

塚本俊介君(50) 転勤、鹿児島鉄道管理局宮崎電区(7880 宮崎市東大淀2丁目) ◎7880 宮崎市宮島町108 R1-17 Ⅲ0985-23-3645

小出章君(53) □転勤 日本通信建設熊本支店◎自宅7862 熊本市新南部519 Ⅲ096-364-6542

田島正博君(54) □転勤 日本情報研究センター(Ⅲ092-714-1793) ◎自宅Ⅲ09447-6-1620

古賀みのる君(54) □転勤 福岡市交通局(Ⅲ092-891-5255)

※学校来訪者(敬称略) 村橋武己(51)・中川祐一(52) 小出章(11)・塚本俊介(50)・釘崎信昭・古賀みのる 矢ヶ部喜俊(54)・田島幸広・堤豊・田島新治・吉富幸重(55)・久保田桂二・吉永清人・松本隆治(56)・坂田明宏・福島勝喜・工藤信幸・村井浩伸・宮地寿人・堤和浩・平川孝司(57)・松永幹哉・柿添正勝・高岡浩一 上田清年・今村孝男・中津海無辺・宮本恭祐・吉田龍次 岩下展之・深浦清久・嶋田秀明・松崎義和・藤本克二郎(58)・平川浩紹・原田克也・荒巻泰尚・福島匡浩・堀塚和英・田島浩二・酒村浩二・森崎勝彦・高石敬一・田島義昭・坂本光弘・三砂忠・古賀智行・桑原浩文・諸藤康夫・和田卓也・村田真也・内田浩享・小島勇司・青木信広(59)

教室通信

工業化学科

弘島龍介君(58) □日本真空(株)に勤務され御活躍中でしたが、59年8月19日に不慮の死をとげられました。心から哀悼の意を表します。後遺族弘島正研氏(父君) ◎7836 大牟田市船津町四丁目2の10 Ⅲ0944-54-1753

※最近次の方が結婚式をあげられました。おめでとうございます。

吉武紀道先生 O59.7.1福岡にて挙式 仲人勝田正男 御夫妻(新婦明美さん・旧姓石松) 新居◎7814 福岡市早良区飯倉2丁目14-14武石アパート412号 Ⅲ092-843-0152

田尻成徳君(46) O59.10.6結婚(新婦純恵さん) ◎7567 大阪府茨木市桑田町2の1住化アパート142号 Ⅲ0726-32-9445

大西幹男君(48) O59.6.3結婚(新婦紀子さん) ◎731-05 広島県高田郡吉田町相合1047 Ⅲ08264-2-2798

森 良一君(48) O59.6.24結婚(新婦啓子さん) ◎7838 福岡県甘木市大字菩提寺183 B SアパートA302 Ⅲ09462-3-0405

中中原和広君(52) O59.11.7結婚(新婦孝子さん) ◎7866 田川市西区後藤寺3の1三井セメント緑町アパート22号 Ⅲ09474-5-0311

井上 敏君(55) O59.5.26結婚(新婦昌子さん) ◎7731-05 広島県高田郡吉田町常友205 雇用促進住宅2-505 Ⅲ08264-2-3644

中村正雄君(46) □転勤 富士写真フィルム(株)仙台営業所産業材料課(7980 仙台市本町2の10)の33 第2日本ビル Ⅲ0222-65-2122 ◎7980 仙台市本町17の16富士フィルムアパート403号 Ⅲ0222-75-2439

福井理作君(54) □転職 九州大学理学部附属島原地震火山観測所(7855 長崎県島原市新山2-5643-29 Ⅲ09576-2-6621) ◎7855 島原市崩山町6773-2 Ⅲ09587-3-3-5123

雪田和浩君(58) □転職 九州ノゲデン(株)7861-02 鹿本郡植木町米塚1188 Ⅲ096835-6321) ◎7869-02 玉名郡袋明町高道大2751-1 Ⅲ09685-7-0896

建築学科

雑誌「ハウス&ホーム」主催、第1回住宅・家具設計コンクール第1部門(工業高校及び高専)において、4 A大橋正弘君がみごと2席に入選しました。作品は昭和60年2月号の同誌に掲載される予定です。

※次の方が結婚されました。おめでとうございます。

園田晋哉君(50) O59.5.20結婚(新婦智子さん) ◎7184 東京都小金井市桜町1-1-10 リバーハイツ

B 202 Ⅲ0423-85-6251

堀内真二君(50) O59.10.21結婚(新婦京子さん) ◎7864 熊本県荒尾市川登井川口

高田敬也君(53) O59.5.27結婚(新婦正子さん) ◎7815 福岡市南区日佐4丁目39-18日藤ビル403号 Ⅲ092-573-6487

吉村 広君(55) O59.6.24結婚(新婦香代子さん) ◎7816 春日市若葉台西5丁目16-1 Ⅲ092-501-9120

※同窓生の転勤・転職・住所等をお知らせします。

原 善章君(50) □転勤 富士電機一級建築士事務所 210 川崎市川崎区田辺新1番1号

堀内真二君(50) □転勤 玉名土木事務所より熊本県庁土木部砂防課へ

山下信行君(51) ◎7336 埼玉県浦和市太田窪5-28-19佐抜様方さん

生駒新也君(55) □転職 殖産住宅相互(株)より自営、生駒建築設計事務所 7861-51 熊本県鹿託都天明町川口1071-2

木本幸男君(55) □転勤 三井ホーム(株)小田原営業所 7250 小田原市城山1丁目15番1号箱根登山鉄道城山ビル1階 Ⅲ0465-35-3100 ◎7259-01 神奈川県中郡二宮町山西1484-1コーポル峰202号 Ⅲ0463-72-5018

今村利弘君(57) □転勤 三井ホーム(株)藤沢営業所 251 藤沢市鶴沼東1-2-402号 藤沢東急プラザ本館4階 Ⅲ0466-27-3131 ◎7154 東京都世田谷区弦巻4丁目3-5 三井ホーム(株)桜新町独身寮106号 Ⅲ03-426-4211

西村博文君(55) □転居7233 神奈川県横浜港南区港南台2-1かもめ団地9-301 Ⅲ045-831-4004

宝部勝彦君(57) □転職 ハウジング三井九州(株)より(株)北洋建設へ 7815 福岡市南区大橋2丁目22番地5号 Ⅲ092-551-5611

坂本顕彦君(58) ◎7615 西京区桂野里町12-1ジョイフル桂108号 和田方

松田裕二君(58) □転職(株)戸田建設より自営 ◎7834-12 八女郡黒木町大字土窪1526

※学校来訪者(敬称略) 鶴田 誠(48)・原 善章(50)・今村利弘(57)・宝部勝彦(57)・楢橋義人(57)・井手裕章(59)以下全て(59)・岡藤貫子・小野 文・金崎恵助・河野俊二・寺本直之・原田直美・馬場英輝・平山達也・堀 喜美子・松原新吾・山口正文

※お願い 卒業生の方で転職・転勤・転居等がありましたら、建築学科まで御一報下さい。

※お詫び 高専だより第55号(今年5月発行)の日吉良昭君(57)の転勤の記事は誤りで第53号掲載の連絡先が正しいものです。お詫び致します。

同窓会だより

同窓会会長 C1 回生 塚本 敏樹 秋冷の候、同窓会会員各位におかれましては益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、本年1月2日に開催された総会におきまして、会員各位の御賛同を得て、本会会則が改正され、会の運営が円滑に行なわれるようになりました事は皆様の記憶に新しいことと思いますが、今回は先づ改正された会則の全文を紹介致します。

なお、本号から「高専だより」の同窓会の頁が増えましたので、会員各位の投稿をお願い致します。行く行くは同窓会誌の発行を実現しなければなりません。今回の紙面拡大はその第一歩と考え、ここから同窓会員相互の絆を益々強くし、ひいては同窓会の発展に役立てたいと思います。会員各位の御理解と御協力を心からお願ひ致します。

●一年前、母校創立20周年記念の祝賀行事を行なうについては同窓会員多数の協力を戴き、めでたくその行事が終ったことはまだ記憶に新しく、関係者一同、会員諸士に改めて感謝している。

その後、既報(高専だより54号)の通り、規約改正の努力が続けられ、59年1月2日の総会(於ガーデンホテル)でその承認が行なわれた。創立20周年を機会に本会の基盤は一層確かなものとなって、以後理事会一同協力しながら約10ヶ月を過ぎて来た。以下、本会の動きを略記し、報告に付きさせていただきます。

●第1回同窓会理事会 昭和59年1月30日(月)18:00~20:00 於 本校小会議室 出席者17名 欠席6名

議事 1) 会費について 2) 59年度事業計画について 会費徴集(4・5年生)については、適当日時を定め、担任が徴集すること、旧会費完納者については、同窓会名簿を無償配布すること。

2) 一イ、同窓会名簿の発行。2) 一口「高専だより」年2回発送(経費節約のため)以上が了承された。

●第2回同窓会理事会 4月28日(土)15:00~17:00 於 本校小会議室 出席者17名 欠席6名

議事 1. 58年度決算報告(別項資料参照) 2. 59年度事業計画について イ)「高専だより」卒業生実費同窓会負担 ロ)名簿発行、11月末発行を目標に諸準備を急ぐこと、「高専だより」発送の業者委託の可能性を見越し、凸版印刷に名簿印刷を発注したことを説明、それぞれ了承を得た。

3. 59年度予算案について、イ「高専だより」の卒業生分負担、卒業生壮行会費用の一部負担等(別項資料参照)が、同窓会名簿発行費追加10万円の一部修正を得た外、ほぼ事務局原案の通り承認された。以上、極く簡単に理事会の報告をしたが、名簿作成作業の其後について報告すると、8月10日猛烈な暑さの中予定通り原稿渡しを終り、目下校了に向け、関係者一同努力中である。特に不測の事故がない限り、予定通り申込み者に新しい名簿を届けられるものと思われる。

向寒の折から会員諸士の無事と健康を祈りつつ、この度のお知らせを終る。

同窓会58年度決算 収入の部(単位円) 昭和57年度繰越金 7,054,493 57年以前年会費 354,810 同 及 利子 2,070,607 58年3月年会費 1,475,000 59年3月年会費 966,000 帳簿記載分 郵便振替分 旧会費15,000/a 新会費7,000/a

合 計 11,920,910.....(1)

支出の部 高専だより諸経費 572,090 会議費 384,630 消耗品代 209,800 連絡通信費 16,050 記念品代 102,350 總會費補助、会議費 封筒代 約5年分 寺本先生へお礼

合 計 1,284,920.....(2)

59年度繰越金

(1)-(2) 10,635,990 同窓会59年度予算

収入の部 繰越金 10,635,990 59年度4月入学学生会費 1,120,000 a7,000x160=1,120,000 名簿代金 1,050,000 a1,500x700=1,050,000 預金利子 未確定

合 計 12,805,990.....(1)

支出の部 高専だより代金 228,000 同発送諸経費 350,000 郵送料及びアルバイト代 100,000 旅費及び弁当代 15,000 消耗品代 16,000 切手・ハガキ代 16,000 切手・ハガキ代 200,000 新年会、壮行会、記念樹等諸経費 100,000 事務謝金 1,940,000 印刷、発送諸経費、振替手数料、ハガキ代等

合 計 2,949,000.....(2)

60年度繰越金 (1)-(2) 9,856,990

同窓会会則

第1章 総 則

第1条 本会は、有明工業高等専門学校同窓会と称する。(目的)

第2条 本会は、会員相互の親睦をはかるとともに、工業技術の進歩及び有明工業高等専門学校の発展に寄与することを目的とする。(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。(事務所)

第4条 本会は、事務所を有明工業高等専門学校内に置く。

第2章 組 織

(会 員) 第5条 本会の会員は、次の者をもって組織する。

(1) 正 会 員 有明工業高等専門学校の卒業生 (2) 学生会員 有明工業高等専門学校の在学 (3) 特別会員 有明工業高等専門学校に在職する教職員並びに専任教官として在職したことのある者及び理事会が推薦する者

(役員) 第6条 本会に次の役員を置く。

(1) 理 事 20名以内、うち会長1名・副会長2名・常任理事4名 (2) 監 事 2名 (3) 評 議 員 若干名 (4) 顧 問 1名 (役員の出選)

第7条 役員は、次のとおり選出する。

(1) 理事は、正会員のうち各科代表12名以内、特別会員のうち、主事2名・各科代表(一般科を含む)の教官各1名及び事務部代表1名とする。 (2) 会長、副会長及び常任理事は、理事の互選により選出する。

(3) 監事は、理事会の承認を得て会長が委嘱する。 (4) 評議員は、各科各期代表各1名、部長及び支部長とする。 (5) 顧問は、校長をもって充てる。(役員の仕事)

第8条 役員の仕事は、次のとおりとする。 (1) 会長は、本会を代表して会務を総括し、理事会、評議員会及び総会の議長となる。 (2) 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代行する。 (3) 常任理事は、庶務、会計、名簿及び事務の各業務を分掌する。 (4) 監事は、会計及び会務の執行を監査する。 (5) 顧問は、理事会等の諮問に応ずる。(役員の仕事)

第9条 校長及び主事をもって充てる役員を除き、役員の仕事は、2年とする。ただし、再任は妨げない。 (任期) 2 補欠によって選出された役員の仕事は、前任者の任期期間とする。 (任期)

第3章 会 議

第10条 理事会は、理事及び監事をもって構成する。 (総 会) 第11条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第12条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第13条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第14条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第15条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第16条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第17条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第18条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第19条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第20条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第21条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第22条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第23条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第24条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第25条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第26条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第27条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第28条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第29条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第30条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第31条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第32条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第33条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第34条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第35条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第36条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第37条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第38条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第39条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第40条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第41条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第42条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第43条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第44条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第45条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第46条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第47条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第48条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第49条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第50条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第51条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第52条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第53条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第54条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第55条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第56条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第57条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第58条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第59条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第60条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第61条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第62条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第63条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第64条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第65条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第66条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第67条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第68条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第69条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第70条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第71条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第72条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第73条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第74条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第75条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第76条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第77条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第78条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第79条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第80条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第81条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第82条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第83条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第84条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第85条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第86条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第87条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第88条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第89条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第90条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第91条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第92条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第93条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第94条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第95条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第96条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第97条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第98条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第99条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会) 第100条 総会は、理事会が必要と認めるときに開催する。 (総 会)

研修旅行を終えて

4A 江原由紀乃

研修旅行。私はこの四文字に、一年の時から心躍らせていた。実際に関西まで行って、建築物はもとより、街の雰囲気、更には人の性格まで違って感じた。心に残る事はたくさんあったが、中でも印象強いのは、二日目の倉敷、一日目のグループ研修だ。一日目、倉敷、生憎の雨だったが、それがかえって落ち着きのあたたかみを見せていた。

以前紡績工場だったものを、浦辺鎮太郎が改造し、ホテルとしたアイビースクエア。壁は、高さ八メートルもあるレンガ造で、それを伝う高が、雨に濡れて鮮やかだった。鋸屋根が一部残されていたが、これが以前工場だったとは思えず、改めてデザインされたかの様だった。この洋風の建物が、不思議と古い街並みに似合っていたのが印象的だった。

美観地区はその名の通りで、倉敷川を挟んで建ち並ぶ家々は、黒い張り瓦と白壁のコントラストが美しく、趣溢れる町家の格子戸と店先に並ぶ簡素な民芸品の数々が、妙に懐かしかった。

その他では、大原美術館分館の大きく波打つサインカープの屋根

中央公会堂は、文字通り中之島の真中に構えていて、一階の講堂は、柱を最少限に抑えてあった。大正時代にこれだけの建物を建設するのは、大変な努力と費用を費やしたであろう。赤レンガのこの建物も、今も市民に親しまれ、利用されているのが判る気がした。

午後からは、心斎橋筋、御堂筋も見て来た。なんばシティは、天神の地下街とは規模からして違う。ロケット広場の大ホールは、大きい割に威圧感はなく、親しめた。床下には水が流れていて、気持ち良かった。

三日目奈良、四日目京都と、日本を代表する建築物を見て来た。特に印象に残ったのは、やはり大仏殿だ。大仏の大きさにも目を張るが、その器とも言える大仏殿の大きさはそれ以上だ。高さ四十七メートル余りもあるという。現在木造建築物は、高さ九メートルまでしか許可されないだけに堂々として、威厳があった。

しかし、観光地だけに人が多く、騒然としており、ほとんど何も見なかつたのが残念だ。今度機会があったら、もっとゆつくりと、落ち着いて見て歩きたいものだ。

私達工業化学科の研修旅行は、最初の二泊を大阪で、そして最後の二泊を京都で過ごすという日程で

した。最後の京都の半日の自由時間以外は、全て会社訪問といういかにも高専特有の旅行でした。私達は計五つの会社を訪問したわけですが、各々の会社で、多くの事を学んできたように思います。他社との競争心をむき出した会社、公害問題に悩む会社、自社の製品の素晴らしさをアピールする会社など様々でした。しかし、どの会社にも共通して言える事は、皆光り向上心、品質の改良の為に必死だということです。私達学生のような甘えは、決して許されないのです。ここに社会の厳しさをあらさまに見たような気がしました。

そして待望の自由行動の日です。お寺廻りをする者、食歩きをする者、どこへ行くか迷ううち、結局どこへも廻れなかつた者など色々でした。私達のグループは、先ず金剛寺、清水寺へとお寺廻りをしました。ここでは、日本独特の風流さを感じました。

大げさかも知れませんが、久しぶりに本場の日本を見たという感じがしました。そして映画村見学。ここでは、テレビや映画の画面では見ることのできない撮影の裏を見ることができました。

このようにして得た、四日間の貴重な体験を、今後何らかの形で生かしてこそ、この旅行が意義あるものになると思います。

いつもより早く起きること六時。不思議に旅行する時は、目覚めが急に良くなる。数日前から準備していたのだが、出発前になると荷物が気になり、再度確認した。タオル、下着、それからしおりと。大牟田駅(集合場所)へ、三十分前に着いた。すでにクラスメイトが数名集まっていたが、どの顔にも笑顔を見逃さない。私は、今回の研修旅行でどんな事を知ることが出来るだろうか。また、どんな思い出を作れるだろうか。そんな期待を持って駅をあとにした。

特急、新幹線、普通と国鉄を利用して、第一日目の見学会社「マツダ」を訪れた。先ず、敷地の広さに驚いた。なにしろ総延長七キロの世界最大級の生産能力をもつ一貫工場である。当然、時間的な制約があるため、塗装と一部組立しか実際に見学することが出来ず残念だったが、それでも一見の価値があったと思う。この工場では、「ワンライン多種生産方式」で車を生産している感心させられるが、十五秒で一台の車が生産されているのには驚いた。また展示場では、四輪操舵システムの未来車に目が奪われてしまった。

翌日は先ず、三洋電機中央研究所へ訪れた。数人ずつグループで見学したが、先端技術を扱っている研究所だけに感動する事、理解が出来ないものなど数多かつた。例えば、コンパクトディスク生産に使用される無塵室の清潔さやキメのこまかさには、これまでの工場に対するイメージを変えさせられた。その他、NMR画像診断装置や三次元回路素子の構想等を目を見張ったが、中でも最も我々の生活になじみ深い太陽電池を瓦にして電力供給しようとするアイデアには大変感心させられた。

その感動も覚めぬうちに次の松下電器テレビ事業部を見学した。テレビの生産はほとんど自動化がされていて、機械が出来ない事を入り手が従って行っているように写ったが、科学の発達が我々にもたらした影響の二面性も見たような気がした。質問の時間には、色々な質問がされていたが、衛星放送システムに話が集まり関心の高さを示していた。

見学最終日には、IBMを訪れた。コンピュータ業界をリードしている会社だけに、見学前から評判が高く、見学に一層身が入っていた。ここでは技術的な話題の他にCS運動とは、一人一人の意見を会社で生かすものだが、そこに人々の集合体である企業の側面が見られた。

全ての見学が終り今回の研修を振り返ると、技術の最先端をのぞけ満足出来るものだったという気がして充実した気分となれた。

研修旅行を終えて

4M 中原 和浩

5月16日より3泊4日、私達は研修旅行として、4社の工場見学と京都で旧所巡りを行った。三菱重工高砂製作所では、発電所や企業向けのタービンやポンプを主に扱っており、現在原子力タービンに力を入れている。ここでは業界トップレベルの「型鍛造機械」機械工作設備などを、最も合理的に配置しているのが特色で、個々の製品の品質や自己開発技術は世界的に高い水準に達しているといっていたが事実密度の濃い見学であった。ダイキン工業では、空気調和技術に力が入られており、エアコンや冷機機といった製品が造られている。ここではPDS方式と呼ばれる多品種の混合生産が行なわれ、生産ライン上を流れる製品は毎回一定の物ではない。そのためラインではさまざまな工夫がほどこされているところが、一番興味深かった。松下電器産業では、テレビについての、ひと通りの説明が行なわれ、プリント自動挿入工程や品質テスト現場を見学させてもらった。感じたことを書けば、さすが一流企業だと思ってしまうが、いくつかあったことで、自分の希望したことをやらせてもらっているという本校先輩の話や聞いた時は驚いてしまった。森精機は主にNC旋盤などの工作機械のトップメーカーで、すべての工程が

管理システムによって行なわれている。ボールネジやギヤ等の精密加工は、自社旋盤で精作され超精密部の加工は高い精度を保持している。機械加工はもとより、個々の部品の運搬までも自動的に行なわれているところがこの工場の製品の品質を裏書きしているように思えた。工場見学を終えて、工場の規模やそこで働く人々の姿を見て、自分の将来を考えるのは絶好の機会であつたと思う。そして、もっと深い知識があればさらに興味深く見学できたであろうとも思った。この貴重な体験を生かして残された一年半を有意義に過ごしたいと思う。

下宿主との懇談会 (59年度) 修己館セミナー室で開く

五十九年度の下宿主との懇談会は六月十四日(木曜日)修己館のセミナー室において行われた。

下宿主のご出席十名、学校からは校長・三主事・主事補・学年主任・学生課・計十名が出席し、約二時間にわたって懇談した。

先ず、校長の挨拶があり、三つのキャンペーンすなわち、挨拶とマナー・環境整備・事故防止という目標を、下宿生活にも浸透させたい旨の話があつた。下宿主の方

はそれを受けて、いくつかの話題が出された。挨拶については下宿生を訪問する学生に挨拶の不充分なケースが多く見られることが指摘された。環境整備については下宿主のご指導をお願いした。事故防止については、往々にして学校で許可していない通学車や遊興車が友人の下宿に置かれていることがあり、これが事故につながる可能性があるため、学校・下宿共に指導したいと話合つた。

その他、男女交際やアルバイトの話も出て、情報を持ち寄ることになった。

懇談のあと、修己館食堂で会食をして散会した。

十月二十四日に、下宿生を集めて、学生主事は前記の話をし、特にバイクは可能な限り持ち込まぬこと、持ち込んでいる場合も絶対に他人に貸さないこと、通学に使わないこと。それと、他人のバイクや車の置場所に下宿を提供しないことを厳重に言い、酒やタバコの溜り場にならぬことも言いきかせ、違背する際は直ちに父兄に連絡し、来校願うといったことを話した。

工場見学

- | | | | |
|--------------|---|--------------|--|
| 5月16日 17日 5M | 本工(株) | 9月6日 7日 2E | 九州工業技術試験所・佐賀エレクトロニクス(株)佐賀工場 |
| 5月16日 17日 5M | 安川電機製作所・三菱化成工業(株)黒崎工場・新日本製鐵(株)八幡製鐵所・東陶機器(株) | 9月10日 11日 3E | 日立造船(株)有明工場 |
| 5月31日 4E | 有明電機工業所 | 9月11日 5A | 荒尾浄水センター |
| 6月1日 2日 5A | 福岡銀行本店・福岡県庁・福岡サンパレス・福岡国際センター | 9月12日 13日 1M | プリヂェストンサイクル(株)旭工場・九州松下電器(株) |
| 6月11日 5A | 福岡市美術館・竹中工務店作業場 | 9月17日 3A | 三井コンクリート工業(株)・九州不二サッシ(株)・日立造船(株)有明工場 |
| 6月7日 4C | 柳アリヂェストン久留米工場・日所 | 9月18日 19日 2A | 佐賀、唐津地区建物・九州電力(株)玄海原子力発電所 |
| | | 9月19日 20日 3M | 九州工業技術試験所・佐賀エレクトロニクス(株)佐賀工場 |
| | | | 日立造船(株)有明工場 |
| | | | 日本フェロー(株)九州工場・黒崎窯業(株)・東陶機器(株)・三菱化成工業(株)黒崎工場 |
| | | | 10月23日 24日 1A |
| | | | 湯布院青少年スポーツセンター |
| | | | 10月25日 26日 3A |
| | | | 北九州市立美術館・西日本総合展示場・東陶機器(株)・新日本製鐵(株)八幡製鐵所・北九州市立中央図書館 |

北原信一君の事故について



たいへん悲しい交通事故を記録しなければなりません。機械工学科四年生北原信一君が、十月二十八日(日)午前六時十五分、二〇八号線・荒尾市金山交差点先のゆるいカーブのところで、車体が斜めになった状態で走ったとき、起こし忘れていたサイドスタンドが地面に接触してハンドルをとられ、右車線にはみ出したところ、前方から来た軽乗用車と正面衝突し、投げ出されて、首の骨を折って即死されました。

きちんとヘルメットもかぶっていませんでした、どちらの車もスピード違反もなかったのに、不運というほかはありません。

十月三十日、正午より、しめやかにご葬儀が行われました。心からご冥福をお祈り申し上げます。若くして逝かれたおうちの遺族の悲しみは想像に絶する、筆舌に尽し難いものがあります。お気の毒で言葉もありません。

体育クラブ新チーム 来年度の抱負と目標

部員33名を抱える我が野球部は来年度で行われる高専大会で優勝することを目指して、また3年以下は甲子園を目指してがんばっていきます。ここ数年苦汗を流し続けてきた野球部ですが、地元で優勝をと、部員一同燃えています。皆さんも、来年の野球部の活躍を熱いまなざしで見守って下さい。必ず期待を裏切らないような結果を出したいと思えます。

硬式野球部

がでず敗れてしまいました。しかし、新チーム結成後は、高専大会の反省をもとにストローク中心でなおかつサービスマッチ等の攻撃を織り混ぜた多彩で幅広い攻撃の出来る攻撃型のチーム作りにより部員一丸となり頑張っています。

卓球部

今年の九州高専大会は、惜しくも予戦リーグで敗退してしまいましたが、来年の高専大会は本校で行われるので、予戦リーグの突破を目指しています。

軟式野球部

我々軟式は例年どの部にも劣らぬ練習量でがんばって来ましたが本戦では実力が発揮できずに悔しい思いをして来ました。今年の新選手は実力もまだまだですが来年までには佐世保並みの実力と試合で負けない気力を養い、来年の夏は茨城の全国大会に是非出場したいと考えています。

硬式庭球部

我々硬式庭球部は現在二十九名で日夜練習に励んでいます。今年の高専大会では、勝てる力を持っているながら十分に力を発揮する事

FWは少々小柄だが集散を速くして、BKに生きた球が出せれば活路を見い出せる。がんばります。

サッカー部

我々サッカー部は、新チームとなった今でも、部員数34名といった大型のクラブです。今年の高専大会では、残念ながらも好成績をあげられませんでした。そこで新チームの目標としては、例年行ってきた練習に加え、今年の大大会で、悪かったと思われる点の一つ一つを練習にとりあげ、力と技の両方をかため、チームを作り、最終目標である、高専大会では、必ず良い成績をおさめたいと思えます。

バレーボール部

我々バレー部は、今年の高専大会では、接戦の末惜しくも敗退してしまいました。新チームは、最上級生を中心に下級生まで層の厚いチームとなりました。例年、有明高専バレー部は、十三点とつめが甘く、それが今後の課題であるといえます。

ラグビー部

今年も北風とともにラグビージーズンが到来した。本年は11月22、23、25日久留米の久留米高専グラウンドで九州地区高専大会が行われる。

我が有明高専ラグビー部は毎日遅くまで実戦的な練習を南コーチのもとで行っている。

バスケット部

我がバスケット部は、今年、佐世保で大会が行われ、惜しくも延長戦の末、敗れ、準優勝となりました。その原動力とも言える、五年生レギュラー、三名が退き、新チームが、九月から、来年度の地元である大会に、目標を置き、活動を開始しました。

陸上部

我々は、明るく、楽しいクラブ、その中でも、礼儀と厳しさを兼ね備えたクラブを、と、新チームの当初に、みんなが誓い、仁田原先生のもとで、個人の技術、チームの戦力アップ、精神面の克服を行い、これから来年度の大会まで頑張っ

柔道部

我われ柔道部は、九名というごく少数の部ですが、キャプテンの川口義守を中心に毎日厳しい練習に励んでいます。今年、一年生が六名も入り、その中には初段三名が含まれ、今後の大会に期待が持てそうです。

ハンドボール部

我々、ハンドボール部は、今年の高専大会における進優勝という結果にあまじることなく、新キャプテン田中(4C)を中心として、来年こそは優勝、そして全国大会出場を、と意気込んでいます。現在、部員数は12人と少ないですが、少数精鋭をモットーに毎日練習に励んでいます。

剣道部

我々剣道部は、現在29名と大所帯で、道場における一人当りの練習は、量的には、少ないものです。しかし、より中味の濃い、気の抜けない練習をめざし、工夫を重ねながら来年度の高専大会を目標に今度は優勝をと、全員一丸となって毎日練習にはげんでいます。

弓道部

弓道において最も重要なのは、精神力である。的を射ることだけを意識すると、かえって悪影響を

もたらす。来年、本校主催で行われる西日本高専弓道大会において、優勝をめざす我々は、技術の向上以上にその強い精神力を養うことが大事であると考え、4C竹下部長を中心として、日々練習に励んでいる。

登山部

登山部は、新チーム結成といっても顔ぶれは変わらず、十二名が山下先生、木下コーチの指導の下に、山にのびたトレーニングを行っています。今年から新しく取入った、砂を詰めたキスリングを背負った段階での歩荷、小岱山歩荷は、山行において大きな成果を上げています。来年は部活動として山行の他に、国体予選参加を考えています。また、部誌「らんだん」も発行したいと思っています。

水泳部

我々水泳部は、五月以後も3名の新入部員を迎え総部員数も27名となり、体力と精神力の充実を目指して活気のある冬季トレーニングを行なっています。

水泳部

今年の夏は自粛のため、大会には参加しませんが、来年の高専大会では今年よりも含めて、持てる力を余すことなくたたきつけるべく、全部員一丸となって頑張りたいと思います。